

「フィリピン・ブルネイ視察を終えて感じたこと」

このたび福岡貿易会の視察団の一員として、2025年11月17日から25日にかけてフィリピンとブルネイを訪問する機会を得た。短期間ではあったが、両国の経済状況や社会の空気を現地で直接見聞きすることで、多くの気づきと学びを得ることができた。本稿では、その中でも特に印象に残った場面を中心に振り返りたい。



コンドミニアム屋上とマニラの街並み

【フィリピンの勢いと課題】

最初に訪れたのはフィリピン・マニラである。今回の視察では、JICA、JETRO、PEZA(フィリピン経済特区庁)、在フィリピン日本国大使館、フィリピン日本人商工会議所、TMI 総合法律事務所、Altius Inspiro, Inc.、Valeon Towerプロジェクト、そしてEcoverde Lipaと、幅広い機関・企業を訪問した。どの訪問先でも共通して感じたのは、フィリピンの持つ「勢い」であり、若い世代の多さと人口増加が都市の活気として表れていた。



郊外の戸建て住宅の外観・内部

一方で、急速な発展の裏側にある課題も垣間見えた。高層ビルが立ち並ぶエリアのすぐ近くに生活環境が十分とは言えない地域が存在し、成長の恩恵が社会全体に均等に行き渡っていない現実を実感した。

住宅地や商業施設に入る際には必ず守衛付きのゲートを通り、荷物検査が行われる点が印象的だった。安全確保のためとはいえ、日本とは大きく異なる治安意識が日常生活に深く根付いていることを感じた。

今回の視察では、実需向けコンドミニアムと郊外の戸建て住宅という二つの住宅関連現場を訪問した。コンパクトな造りながら、コンドミニアムでは共用施設が充実し、郊外住宅では家族向けの共有空間が整備されており、生活を楽しむ工夫が随所に見られた。

【フィリピンの魚介類】

視察の合間に立ち寄ったスーパーの鮮魚売り場では、Bangus(ミルクフィッシュ)をはじめとする現地ならではの魚が並んでいた。特にサーモンが高価格で販売されていたことから、南国における嗜好や需要の変化を感じ取ることができた。



コンドミニアム屋上から



Bangus(ミルクフィッシュ)